

## 班別活動報告

### 4 班 DV について知っていますか ～ 山梨県・甲府市の支援体制について～

第3次「こうふ男女共同参画プラン」及びプラン別冊「甲府市配偶者等からの暴力の防止及び被害者支援基本計画」に基づき、甲府市等の現状と施策を学習し、委員相互の意見交換を通じてエンパワーメントを図るとともに市民への情報提供・啓発活動を実施する。



《リーダー》

小林 清巳

《サブリーダー》

小川はるみ

《メンバー》

今橋あけみ／小笠原 稔／大窪真由美

落合 洋子／佐藤 峰子／内藤 司朗

矢崎真由美

### ＊ ＊ 活動と学習の記録 ＊ ＊

- 2020/ 9 グループ分け・役割分担・今後の日程・その他（連絡網作成）
- 2020/10 グループ別打合せ（活動計画・目標設定）・まとめ
- 2020/11 グループ運営について・まとめ
- 2020/12 DV 学習会について・DV 聞き取り訪問先について・山梨県 DV 統計整理
- 2021/ 1 「女性保護事業のあらまし」（山梨県女性相談所発行）について・活動目標について
- 2021/ 2 **2/5 第1回 DV 学習会**  
2/9 活動のふり返り・学習会をうけて（意見交換）
- 2021/ 5 令和3年度年間計画について・DV 学習会について
- 2021/ 6 パネル展について・活動報告書について・写真撮影
- 2021/ 7 7/13「女性に対する暴力をなくす運動」期間に実施する活動について  
**7/28 第2回 DV 学習会**
- 2021/ 9 学習会をうけて（講座報告）・パネル展について
- 2021/10 活動報告書等について・4班パネルの原稿について
- 2021/11 パネルの作成
- 2021/12 活動報告書校正

私たちは、少人数単位で自立的な活動を目標に計画をスタートいたしました。当初は、山梨県配偶者暴力相談支援センターやNPO法人クローバーへ、聞き取り訪問したいと進めていきましたがコロナ禍で大幅に計画を変更せざるを得なくなりました。活動が思うように進められない中でも、学習会を2回開催し、多くの学びを得ることが出来ました。

# 実施報告



## 第1回 DV 学習会

1 回目の DV 学習会では講師に臨床心理士で山梨大学学生サポートセンターカウンセリングサポート支援室の伊藤美佳さんをお招きして「DV(児童虐待等)被害者支援に協力できること」「コロナ禍がDV等、被害者に及ぼす影響」についてご講話いただきました。

日時：令和3年2月5日(金)13:30～15:00

場所：甲府市役所本庁舎 4階 本部長会議室

参加委員：20名(女性15/男性5名)



被害者と加害者には何が必要とされているのか。アンケートから、**傾聴の大切さ**というご意見が多くありました。伊藤先生は、「**被害者の心に寄り添い、言葉を信じ事実を真剣に受け止め、共感を心掛ける、しかし客観性を保ちながら見返りを求めない支援を申し出る、被害者の良きアンカーとなれるよう心掛けます。**」と話されました。一言に傾聴と言っても、傾聴者が被害者を思いやりの言葉が返って相手を傷つけてしまう恐れがあることも知っておく必要があります。一方、加害者についてもなぜ暴力を振るってしまうのか？どうすれば怒りをコントロールできるのか？加害者の中にはこんなことに悩んでいる人もいます。加害者を闇の中から救い出すために「**更生プログラム**」が必要です。

**DVを根絶するために必要な事**は何か、それは**子ども達への教育**です。今起こっている現実問題を解決することも大切ですが、未来を背負う子ども達の中から被害者や加害者を出さないようにするために私たちのすべき事は、DVとは何か、子ども達に考える機会をつくる事です。学校教育は勿論ですが私たちが日ごろからDVに対する知識を持ち家庭内であるいは地域で、機会あるごとに、子ども達に知らせる事が重要です。



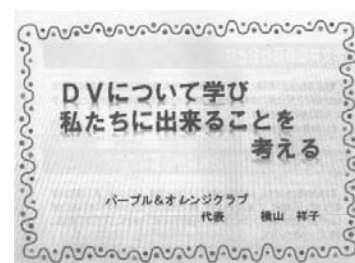
## 第2回 DV 学習会

2 回目の DV 学習会では講師に元山梨県男女共同参画課長、山梨県男女共同参画推進センター館長などを歴任され、現在はパープル&オレンジクラブ代表の横山祥子さんをお招きして「DVについて学び私たちにできる事を考える」についてご講話いただきました。

日時：令和3年7月28日(水)13:30～15:00

場所：甲府市役所本庁舎 6階 大会議室

参加委員：23名(女性17/男性6名)



家庭内で起きるDVはその性質上外へ出にくく、**密かに時間をかけて進行してゆく**ケースが多く、被害者は深い傷を負っています。**被害者にとって暴力からの脱却は長時間を必要とし、自らの力だけでは困難な状況が少なくありません。**そのため、**相談センターの存在が不可欠**となり、これらの**窓口の存在を周知**する事が重要です。多くの人がある存在を知る事で身近なDVに気付くきっかけにもなります。こうした機関では金銭的な援助も可能であり、加害者から逃げる力にもなっています。また、地域住民は支援センターの存在を知り、疑いがある時にはためらわず通報する事がDVの深みから被害者を救い出すことが出来るという事を理解し、**黙過することなく勇気をもって通報すること**です。地域力やご近所付き合い力がDV撲滅の強いパワーとなり、私たちはこのようなことを広く周知させることが重要です。

# DV・デートDVを未然に防ぐための教育・啓発（パネルより）

### 暴力のイメージ

**暴力=支配=人権侵害**

安全・安心・自由を奪う

相手の主体性を奪う

自己決定・自信・成長

#### DVの暴力の種類

行動の制限(社会的隔離)  
精神的暴力  
身体的暴力  
性的暴力  
経済的暴力

- 行動の制限・メールアドレスをチェックし、削除する。  
・外部との接触を制限する。
- 精神的暴力・人格を否定する。無視する。命令する。  
・思い通りにならないと不機嫌になる。
- 身体的暴力・怒鳴る。殴る。蹴る。平手打ちをする。  
・床や壁に体を押し付ける。
- 性的暴力・同意のない性的行為をする。  
・恋人や夫婦ならセックスに応じるべきと言う。
- 経済的暴力・お金を取り上げる。借りたお金を返さない。  
・自分の経済力を使って言うことを聞かせる。

※こんなこと・・・していない？されていますか？

夫や恋人の言う事が絶対で、最優先にしないと不機嫌になる。

それが当たり前だと思っていないですか？  
それは思い込みや勘違いです！

★気づくことが大切です。被害者が出る前に！  
注意喚起・啓発こそ、私たち推進委員の役目です！

## DV・デートDVを未然に防ぐための教育・啓発

性教育の  
必要性

### 「イエロー信号のはじまり」を見つける

#### (1) DV・デートDV被害にいたる構図

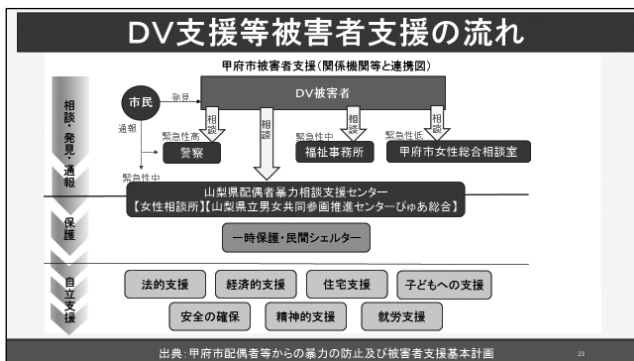
(見てきたように)

- ①「上下関係」をつくって、 ②「支配・被支配の関係」に陥らせる  
(地位としての上下) (リードする者される者)

#### (2) 被害が出る一歩手前で気づくこと ……<大切>

(つまり) ①の時点で、②の前に 注意喚起すること ……<大切>

- この 注意喚起 の啓蒙・啓発こそ、推進委員さんの役目



「DV にあっていたら、相談をして下さい。  
声を上げて下さい。」

各関係機関が連携を取っていることで、被害者が自立するための支援を受けることができます。相談センターの存在、窓口を周知することが重要で、多くの人たちがその存在を知ることによって、身近なDVに気付くきっかけにもなります。被害者の早期発見や自立支援に向けて、被害者のニーズに応じた適切な支援ができるよう関係機関との連携を深めます。

## ～推進委員として私たちにできること～

4班は「DVについて知っていますか？」をテーマに学習してきました。2回のDV学習会では、DVの現状や被害者救済の仕組み、支援の際の傾聴の大切さや注意点など具体的に教えていただきました。

甲府市男女共同参画推進委員会は、これまでDV防止啓発パネル展や街頭啓発活動を行ってきました。今後は推進委員一人ひとりが地域・学校・職場等で何ができるのか。推進委員の中には、ボランティア等で地域に貢献されている方々が多く在籍しています。この学びを糧として啓蒙啓発活動を実践していきます。

DVのない社会、誰一人として被害者・加害者・傍観者にならないために、啓発活動を絶え間なく実施していく事が、私たち推進委員の役割ではないでしょうか。

また、次世代に繋げていく事も大切です。子どもの頃からの人権教育の必要性「DVとは何か？」命を脅かす犯罪である事の認識、行政との連携が不可欠です。

## 2年間の活動を終えて

### 今橋あけみ

委員になり、この2年間常に男女参画を意識しながら生活していた気がします。そしてこの会で初めて耳にした「ジェンダー」「SDGs」。今では毎日、テレビ、新聞等で報道されているが、この言葉を知らなければ、耳に、目に入りませんでした。その意識を高められたこと、丁度今期は「日本女性会議 2021 in 甲府」を聴講でき、大変勉強になりました。

### 大窪真由美

自治会から推薦されて、何の知識もなく解らないまま、あっという間に2年が過ぎてしまいました。私の周りにはDV被害者という人がいないので遠くに感じていましたが、勉強していくとDVは身近に潜んでいて、声を上げられずにいることを知り、地域などで助け合えるネットワークを作っておき、恐れずに手を差し伸べる必要があると感じました。

### 小川はるみ

4班は個人学習を中心に月一回の班ミーティングで情報交換や進捗を共有しました。8名のメンバーは今期から委員になった方も多く、はじめはぎこちなかった運営も回を重ねる毎に少しずつ軌道に乗ってきたように感じました。時はコロナ禍の真ただ中。感染予防をしながら意見交換に加え学習会を行うことができ、被害者支援についてやDVの現状、被害者救済の仕組みを学ぶことが出来ました。また、私たちができること等のアドバイスもいただき貴重な学習の機会を持つことが出来ました。

### 落合 洋子

人とは知ることによって前に進むものだと感じました。活動を通して多くの事を知りました。さらりと読んでいた新聞記事、身体を通過するテレビの声、これらに眼を向け耳を傾けると、DVとそうでない行為との境界線が見えてきました。長くひとり親相談員を務めて参りましたが、対象者との会話の中からも「もしかしたらDV被害にあっているかもしれない」と感じることもあり、こうした時にはじっくりと耳を傾けるようになりました。些細な事ですが、2年間の活動の成果と感じています。

### 小林 清巳

7期はコロナ禍のため、当初予定していた活動が制限された状況が続きました。そんな中でもDVをテーマに班学習を進めてきました。研修や学習を通してより深くDVの根底にある物の理解を深めました。また、「日本女性会議 2021 in 甲府」に分科会運営メンバーの一員として参加出来ました。本当に良い経験をさせていただきました。ありがとうございました。

### 佐藤 峰子

私は、娘が小学校の時のPTA役員を引き受けたのをきっかけに、男女共同参画について意識し始めました。そのような中、令和元年に自治会連合会の推薦により、「男女共同参画審議会」を引き受け、男女共同参画の実現は、行政のみで推進するものでなく、私たち市民の関わりが必要だと感じ、改めて推進委員として学習したいと思いました。コロナ禍の状況により少人数での班活動となりましたが、講演会等には積極的に参加し、学習の機会を得ることが出来ました。2年間、ありがとうございました。

### 内藤 司朗

2年間、講演やグループ活動を通じて、ジェンダー平等、DV・ハラスメント、LGBT、SGDsなど多くのことを学びました。「NWEC フォーラム 2021」で国連事務次長・軍縮問題担当上級代表の中満泉さんが「『ジェンダー平等』が人類を救う」と訴えましたが、この分野でも「シンク・グローバリー・アクト・ローカリー」(地球規模で考え、地域で=身近な行動)です。「理解を深めた男が一人増えた」ととどまっていたは「推進」委員の役割を果たせません。理解したことをどう周りに広げていくのか。地域でも「あらゆる決定の場面に男女がいる」風景の実現を目指します。

### 矢崎真由美

今期はコロナ禍で今までのような活動ができず、私自身は模索するうちに任期を終えた気がします。毎回の班活動では、熱心に取り組むメンバーに刺激を受け、一緒に活動できたことをありがたく思っています。ありがとうございました。